



2025 明治安田 J3 リーグ 第 14 節
6/1 (日) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

高知ユナイテッド

順位表

5/18現在
基本 13試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	栃木 C	28p	+10	20	10	A●
2	FC大阪	28p	+7	18	11	A△
3	鹿児島	23p	+12	25	13	
4	北九州	23p	+6	13	7	HO
5	宮崎	23p	+5	17	12	
6	八戸	21p	+3	13	10	H●
7	奈良	20p	+2	16	14	A△
8	松本	19p	-1	14	15	H△
9	金沢	18p	0	15	15	H●
10	福島	18p	-5	22	27	A●
11	讃岐	16p	-1	12	13	HO
12	栃木 SC	16p	-1	7	8	H●
13	群馬	14p	-3	20	23	A△
14	相模原	14p	-5	11	16	
15	高知	13p	-4	21	25	
16	岐阜	13p	-5	14	19	---
17	長野	13p	-5	13	18	
18	沼津	10p	-3	10	13	HO
19	琉球	10p	-5	9	14	
20	鳥取	10p	-7	8	15	A●

次回HomeGame

第17節 vs. テゲバジャーロ宮崎

6/21 (土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

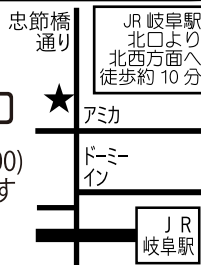
名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
＜定休日：日曜・祝日＞
TEL. 058-252-1580



通算対戦成績	初対戦			
直近の対戦結果				
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/05/24 天皇杯@新日本球 岐阜 3-1 富山新庄ク	高知	2025/05/24 天皇杯@ピカスタ 讃岐 2-2(aet.1-1, pen.4-5) 高知
		2025/05/17 J3 - 13節@C F S 栃木 C 1-0 岐阜		2025/05/17 J3 - 13節@正田スタ 群馬 2-2 高知
		2025/05/10 天杯予選@新日本球 岐阜 3-0 岐阜セカンド		2025/05/11 天杯県予選@春野球 高知 1-0 KUFC南国

高知ユナイテッド：

1977年に創設された四国リーグのオリジナルメンバー「南国サッカークラブ」は「ひまわり牛乳南国」「南国高知」「アイゴッソ高知」と名を変えつつ四国リーグに在籍、四国リーグ優勝6度(2001年からは5連覇)もJFLに届かず。一方、1998年に創設の「トランジェッター」は「トラスター」「北陵トラスター」「なんこくトラスター」と名を変え、2009年に四国リーグ初参戦。2013年にサッカーの強豪・高知大学(元・岐阜の菅和範はOB)と提携、「高知Uトラスター」として強化、2014年四国リーグ初優勝。この2チームが2016年に統合して「高知ユナイテッド」となる。2019年の地域CLで2位(優勝はいわきFC)となりJFLに昇格、2024年JFLを2位で終え(優勝は栃木シティFC)、同年のJ3で19位のYSCC横浜との入替戦となり、1-1、2-0の1勝1分でJ3加盟を果たす。なお、天皇杯では第103回(2023年)大会でJ1のG大阪、横浜FCを破り準々決勝まで進出して話題となった(準々決勝で川崎Fに0-1で敗退)。(吉田鑄造)

● J3 リーグ 2025 シーズンも既に4分の1を経過しているが、なかなかチームの調子が上がらずに苦しむFC岐阜。5/6(祝・火)第12節・ホーム沼津戦では、#9ドウドウ、#27横山智也そして#16西谷亮が次々に得点を奪い、なんと前半11分までに岐阜が3点を奪う。しかし、沼津に前半に1点、後半にも1点を返され、1点差に。その後も沼津に決定機を作られたが、何とかなしのぎやり、3-2で勝利することができた。そして5/17(土)第13節・アウェイ栃木C戦は、大雨で水たまりのあるピッチでの試合に。試合開始直後に岐阜に決定機が生まれるが決められず、お互いにボールを縦に蹴り合う試合に。すると後半に岐阜の守備陣のミスを見逃さなかった栃木Cに先制点を奪われる。岐阜も決定機を作るがやはり決められず、0-1での敗戦。

この2試合の結果、FC岐阜の順位は18位から16位に上昇。下を見れば、20位・鳥取から11位・讃岐までの勝点差はわずかに6。上に目を向ければ、岐阜との勝点差6には8位・松本がいる。首位・栃木Cと2位・FC大阪の2チームは一步抜け出しているが、そのほかのチームは混戦状態だ。チームには、1試合でも多くの勝利を掴み取り、流れに乗って上位争いに加わる姿を、僕ら岐阜サポーターに見せて欲しいものだ。

そして、例年5月は天皇杯が始まる季節でもある。5/10(土)天皇杯岐阜県代表決定戦は、FC岐阜 SECOND との「兄弟対決」に。中3日で試合に臨んだFC岐阜トップチーム(以下「トップ」)がコンディショニング的には不利だったが、トップの意地を見せて、3-0で勝利。トップは岐阜県代表として天皇杯1回戦に進出した。そして、その5/24(土)1回戦の対戦相手は、富山県代表・富山新庄クラブ。序盤は拮抗した試合展開だったが、#24栗飯原尚平、#4甲斐健太郎そして#3野澤陸が、それぞれセットプレーで得点。1点を返されてしまったが、3-1で勝利。岐阜は6/11(水)に行われる、湘南との2回戦に駒を進めることとなった。さて、再びリーグ戦に戻った今節の対戦相手は、高知ユナイテッドSC。昨季JFLで2位となり、YS横浜との入れ替え戦を制して、今季J初参入となるチームだ。今季から指揮を執る秋田豊監督のもと、現在の順位は、岐阜を得失点差で上回って15位。ここまでの高知は、大量得点(最大5点)をして勝つ試合もあれば、大量失点(最大5点)をして負ける試合もあり、勢いに乗せると非常にやっかいな相手だと言えるだろう。

高知で最も警戒すべき選手には、何と言っても#11小林心を挙げる。現在10得点でJ3得点ランク単独1位。福島を相手にハットトリックを達成して、4月のJ3月間MVPにも選ばれている、現在J3で最も勢いのある選手と言ってもいいだろう。一方で#11小林ばかりに気を取られると、他の選手の攻撃を許すことになる。岐阜の選手たちには、チーム全体での守備が求められるだろう。また、6/1(日)から6/10(火)は、特別登録期間(ウインドー)だ。岐阜は既に、鳥栖から平瀬大選手が期限付き移籍で加入し、ウィリアム・トギ選手の加入が内定しているが、ほかに選手が補強されるかどうかとも注目したい。なかなか勝ちきれない今季の岐阜だが、そんなときだからこそ、僕らFC岐阜サポーターの声援が必要だ。最後まで勝利を信じて、時には叱咤激励しながら、チャントや拍手で、選手たちを鼓舞しよう。そして今節も試合終了の笛と同時に、選手たちと共に勝利の歓喜を分かち合い、万歳四唱そして“HYPER CHANT”を、このホームスタジアム・長良川に響き渡らせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第12節】岐阜 3-2 沼津

●前半 11 分までに 3-0 となるとかいった誰が予想出来ただろうかというトンデモナイ展開に。沼津の両サイドバックの対応が甘く、横山智也、栗飯原尚平のいい攻撃の展開が。特に先制点、横山のマイナス気味のクロスヘニアに飛び込んできたドウドウのゴールはビューティフル！まさに CF の仕事と云ったところか。

まあこのままスナナリ終わるわけではないなと思ってたら、前半のうちに 1 点を返される。この直前のプレーで岐阜の選手がセルフジャッジで一瞬動きが止まってしまったのが失点に繋がってしまうことに。レフリーのジャッジに不満があるのは分かるが、笛が鳴るまではインプレーなのだからしっかりやり切ってほしかった。この時の雰囲気を見て、これは 3-3 まではあるなって思ってしまった。

そして後半にもう 1 点返され、選手交代も機能せず、最後は何とか逃げ切り……。頼むから普通に勝ってくれ（苦笑）。ともあれ、「競馬 DAY」として多くのゲストを迎えて、今シーズン最大とも言えるプロモーションを打った中での試合に勝てたことはとても良かった。ここまで奔走されてきたスタッフの皆さんも報われたのではないのかな。本当にお疲れ様でした。（岐阜の誇り）

●沼津戦は #27 横山智也が今季初スタメン。昨季終盤の好調は、彼がメンバー入りしたことも要因の一つだと僕は思っているの、期待して…たら、前半 3 分に右サイドを突破しつつロングボールを受けて中央に折り返し、それを #9 ドウドウが押し込んで、あっさり先制点。そして前半 7 分には、相手のクリアで逸れたボールをダイレクトに撃ってゴール！さらに前半 11 分には #16 西谷亮が技ありのゴール！…と、ここまではよかった。やはり、岐阜の格言 “3-0 は危険なスコア” は健在と言うべきでしょうかね…（溜息）。円陣を組んで戦い方を整理した沼津に対して、4 点目を獲って相手の心を折りにかからず、攻撃の手が緩んでしまう岐阜。それまでは両 SB が中央に入らないように整理してたように見えただけ、それも無くなってしまう。そしてセルフジャッジで足が止まり、その隙を突かれて前半に 1 点を返される。後半に入っても岐阜は修正できないどころか、選手交代する度に、対応が悪くなってゆく。これだったら、先発選手に 90 分間頑張って貰う方が、（足は止まるだろうけれど）よっぽどマシなんじゃないのって思えてしまうほどで…（溜息）。沼津の攻勢に耐えきれず、さらに 1 失点。ここで僕は同点どころか、逆転負けも正直覚悟しました（怒）。実際、その後の沼津に決定機もあったけれど、外してくれて助かったようなもので。ホント、チームとして猛省が必要です。そりゃあ、僕もよく『勝てばええんや！』的な台詞を吐きますけど、ホントここまで『収穫は勝ったことだけ』なんて精神衛生的に悪い試合をホームでやるのは、流石にいただけなんです（溜息）。まあ、負けるよりは数万倍マシなんです。とりあえず #27 智也の 1G1A だけは、おめでとうございますと申し上げます。（ささたく）

●諸事情により DAZN 観戦。トークショーも亜咲花ライブも出張・マルキン食堂も堪能したかった。でも、後悔はしていない。一番大事なのは試合の結果。とにかく、勝てた。眼下の敵との 6 ポイント・マッチ。ソレを勝ち切った。終了の瞬間には『安堵のため息』と脱力感で喜びに浸る余裕すらなかった。

試合の内容については語りたくない。もうちょっとで『3 ポイントしても勝てないチーム』って代名詞が定着するところだった。いや、十年前まで遡らなくても 3 月のアウェイ・福島戦が何度脳裏をよぎったことか。あの試合から「何も成長していない。」ということなのか？ただ、福島戦より 1 点多く取ってた。それが勝因。だから、少しは成長してる……というふうに思えばいいのだけれど。

勝てばイイ。だが、勝ちさえすればイイってワケじゃない。確かに、生き残る為にも、上がる為にも勝たなきゃいけない。

だから、結果として勝ち点 3 を取るのは最も重要。だけど、点を取るために前がかりになってる相手に 9 人で守ろうなんてムリ。かといって、前がかりだから裏が空く、とロングボール出しても収まらない。時間もスペースも活かせないじゃ、あの体たらくは当然だよね。

沼津が交替で川又や学を出してきたのとは大違い。2 人とも、さすがに全盛期の出来にはないけど、ほんの一瞬で状況を変えるセンスはあるメンツ。今までの経験値は伊達じゃない。「面構えが違う。」ってヤツだよね。監督は交替選手を入れるコトで、チームにどんな絵を共有させようとしたのか？甚だ疑問。前節の群馬戦。ほんの数センチ違えば、ウチがこの試合の沼津になっててもおかしくなかった。その群馬は、今節 4 点取って勝っている。現時点で「沼津にしか勝てそうにない。」という状況。その相手から最低限の結果を出した。歯痒いけれども、とりあえず、ヨシとしておくしかない。さらなる成長を期待したい。（ぐん、）

●荒天時以外は、長良川での試合後は観戦仲間が集まって「感想戦」をしている。ぼくも岐阜の試合を観て長い方だとは思っているのだが、こんなにも「勝って荒れた」感想戦になったのは記憶にない。それくらい、ヒドい試合だった。ク■みたいにヒドい試合だ。■に『ソ』を入れるか『ズ』を入れるかで多数決を採りたいくらいだ。

序盤、沼津 DF が考えられないくらいのゆるゆるっぷりで、開始 3 分に北からのフィードをトモヤが綺麗に止めてすぐの中へ、ちゃんと詰めてたドウドウが移籍後初ゴール。その 4 分後にはあいちゃん→左 SB のトヤマが上がってクロス→相手 CB のクリアがトモヤに渡ってワンタッチゴール。その 4 分後には中央で北→西谷とつないでゴール。開始 11 分で 3-0。ここから試合は落ち着いていくのだけど、J3 で最下位とはいえ攻撃力自体はあるはずの沼津は岐阜のセルフジャッジの間隙について 1 点返して 3-1 で前半終了。

ぼくは怖かった。序盤の『確変』タイムを終えたら有効な攻撃がほとんど出せなくなったから。後半に 3-2 になったら試合がどうなるかわからないとさえ思った。そうならないためには、意味不明な選手交代をしないこと。そう思ったのに。64 分に意味不明な交代が発動する。ドウドウ→ササカイ、トモヤ→泉澤。1 TOP としてプレーにバリエーションを持たせられるドウドウを下げて「前進あるのみ」のササカイ投入で自らプレーの幅を狭める。さらに、若くて勢いのまだあるトモヤを下げて、老獪なプレーさえ出来なくなっている泉澤を投入。ぼくはこの時点で 3-4 の大逆転負けも覚悟した。

69 分にさらにゴールを奪われ 1 点差、ここでリョーマ→守りのユーティリティ・コーダイの交代。中盤を落ち着けるのが目的かな。しかし、前がかった沼津の反撃はなかなか収まらない。ここで意味不明どころか理解不能な交代が発動する。西谷→ジロー、あいちゃん→ウィリアム。「守備に定評のない」攻撃特化の選手の投入。ねえ、監督は試合を落ちつけたいの、4-2 にするバクチを打ちたいの、どっちなの。沼津の反撃は川又 & 齋藤学のド級の戦力投入でさらに威力を増し、岐阜はとにかく跳ね返すだけ。前線に蹴りだされたボールをササカイが少しでもキープしてくれたり、相手 DF に渡ってもウィリアムが少しでもプレスをかけてくれれば守備も落ち着ける時間が出来るのに、あなたがたは 85 分以降はなにしてたの。結局、試合終了まで 9 人对 11 人でフクロにされた。逃げ切れたのは、ホントに「9 人の選手」がよくハードワークしてがんばってくれたからに他ならない。

試合後の岐阜の公式サイトに、囲み取材での大島監督のコメントが出ている。「守り切るのか、追加点を取るのかの判断は（ベンチか選手か）どっちがするのか」という実に正鵠を射た質問に対し、監督の答は「両方だ」。87 分に監督から『逃げ切る』というのは発信した、と。しかし、選手たちが判断する部分もあるし、自分が判断することもある……そうだ。でもね、79 分にジローとウィリアムのアタッカー投入で交代枠を使い切って、それで 87 分に「逃げ切れ」ってメッセージをピッチ

に送ったって、「笛吹けども踊らず」ではなく「笛吹けども踊『れ』ず」になるんじゃないのかな。

選手はベンチから与えられたリソースを使って、使うしかなくて（選手が監督に「4点目を獲るからアタッカーを入れろ」と指示したわけではないでしょう）、それで相手と対しつつ「守るのか」「行くのか」自分たちで判断する……。大島監督は『第一優先が勝ち点3ではない』壮大なチーム構築実験を（もちろんフロントの許諾を得て）行っているのではないかと……。という気がしますね。この（J3のチームに相応しくない）困難なミッションに挑んでいる岐阜は、来季は違うステージで戦っているかもしれない。それが『上』か『下』かはわからないけれど。（吉田鑄造）

【天皇杯県予選】 岐阜 3-0 岐阜セカンド

●今年の天皇杯・県代表決定戦は、久しぶりに FC 岐阜 SECONDO（以下「セカンド」）との対戦。まあ、トップチーム（以下「トップ」）が J2 にさっさと昇格して、県代表の座をセカンドに譲るようにならないと……。と言われ続けてはや5年（苦笑）。さてスタメンには、遂に GK # 1 茂木秀の名が。アキレス腱断裂から約1年、素直に復帰を喜びたい。そして試合は、トップの一方的な展開に……。ならないのね、予想はしてたけど（苦笑）。トップを喰ってやろうとセカンドの選手たちの方がアドレナリンが出ていたんだと思う。それでも、セカンドは東海2部Lでカテゴリー的には3つ下なんだから、2人ぐらいにマークされても気にも止めないぐらいのプレーを見せて欲しかった。ただ、流石に30分過ぎにはアドレナリンが切れたらしく、足が止まりだしたのでトップが先制、そして追加点。ただし2点目は、『あ、これは弾かれるわ』って僕は思ったので、この点は GK の力量なのかもしれない。後半の3点目も、Jレベルの GK なら、弾いていたような気がします。とりあえず、“兄弟対決” はトップが矜持？ 貫禄？ を見せて3-0で勝利。下剋上がなくて、ちょっと安心しました（苦笑）。（ささたく）

●雨が上がったばかりのメドウ、濡れた階段ですべってすってーん、ゴチャッ！。腰を強打してしまい、前半終了で撤退せざるを得なかった。皆さんも足元にはご注意ください。さて、その試合は前半終了時点で岐阜（トップ）が2-0とセカンドをリード。ぼくは準決勝でセカンドが協立大に圧勝したのを観ていたけど、そのセカンドの実力で推しはかれれば、トップが前半で2-0というのは実に物足りない内容だった。攻撃では1TOPのFWにひたすらロングボールが供給され『ようとする』仕掛け。3カテ下のセカンド（東海2部所属です）相手にこれがうまくいってどうなるというのだろう。まったくポストプレーをしようしない1TOPにどっかんどっかん。さらに問題だったのはボランチ。繰り返すが3カテ下のセカンドに「ここが奪いどころ」と完全に見抜かれてしまい、ボールが来たところでセカンドの攻撃手に襲われてチャンスの終点かつピンチの起点に何度あったことか。トップの試合でほとんどベンチにも入れないのには理由があったのだね。ぼくが引き揚げてから追加点があって3-0で決着だそうだけど、「得るところがなかった」というよりは「得ようとしていなかった」前半の戦いぶりだった。「後半はそんなじゃなかったんだぜ?!」だったらいいのだけど。（吉田鑄造）

【第13節】 栃木C 1-0 岐阜

●降り続く雨の影響で、ピッチは大量の水を含み、ところどころ水溜まりができるほどに。これが栃木シティの持ち味であるスピードとボールを繋ぐサッカーというものを生かすことができず（特に影響を受けていたのが、田中パウロ淳一だっ

たと思う）、お互いに長いボールを蹴り合う雨の日あるあるなサッカーの内容に。

それでも一つのプレーのミスを突かれて失点、そのまま逃げ切れ。決める力を持った選手がいた栃木シティとそういった選手がいなかった岐阜との差か。残念だけど、目標を下方修正して戦っていかなければならなくなってきたかな。初訪問のシティフットボールステーション。コンパクトで綺麗なスタジアムではあったけれど、アウェイサポーターにとっては、いろいろと厳しい環境であったと言わざるを得ない。今回メインビジター席を買ったのだけれども、まさか椅子なしの立席になるとは思ってもみなかった（まあ事前にしっかり調べておけば良かったのかもなのだが）。あと、公共交通機関で来場する身としても厳しい場所とアクセス方法である。一日数本の地域のコミュニティバスでは、とても頼りないといしか言えない。せめて JR 岩舟駅からシャトルバスを出すような形にしてほしいと思う（臨時駐車場からのシャトルバスはあった）。残念ながら、次また積極的には行きたいとは思えないスタジアムの一つになってしまったなあ。（岐阜の誇り）

●雨の降りしきる CITY FOOTBALL STATION。いたるところに水たまりができてるし、芝も剥がれてる。改めて、メモリアルの芝の管理が格段に向上していることに感謝します。んで試合は、いきなり開始直後30秒で#9ドウドウに決定機が来たんだけど……。アレは決めて欲しかった……。（溜息）。そして、水たまりでボールが止まるから必然的に、単純に縦にボールを蹴り合う展開に。これだったらウチにも、首位チーム攻略の芽が……。と思いながらも、やっぱりシュートまで持っていけない。後半に入ると、栃木Cは#90ピーター・ウタカを投入。すると、自陣G内に転がってきたボールの処理で選手が交錯、その隙を見逃さない#90ウタカに先制点を許してしまう。ボールが止まる可能性があるのは選手たちも分かっていた筈なのに、あの瞬間は集中力が切れたのか、それとも油断してしまったのか……。（溜息）。一方で、決めるべき時に決められないから、こうなってしまうという見方もできる。そういう仕事のできるストライカーがいるかどうか。それが首位を走るチームと、そうでないチームとの違いなんだと、改めて痛感させられました。ただし！スタジアムについては圧倒的に向こうの方がショボい。なんとかJ3は許されるといったレベルで、もしこのままで栃木CにJ2ライセンスが交付されたら、チェアマンに一言物申さねば気が済みません。（ささたく）

●アウェイ・栃木市戦。初めての対戦だし、行ったことないスタジアムには興味が湧くのはしかたない。ウキウキで出かけたかったんだけど、雨だもんね。やっぱり、メゲる。おまけに、試合前に雨を避ける場所が極端に少ないスタジアムだったんで、気分はさらに塞ぐよね。いや、でっかいモニターでDAZNのハイライトを流してるスポーツ・バーみたいな施設があるから、逃げ場はある。あると言えばあるんだけど、ね（苦笑）。

試合は0-1。かつての長良川のような『田ツカー』を見ることもできるとは。正直、ビックリしたんだけど、逆に、このピッチならチャンスはある！と。栃木市の方がやりたいサッカーが出来なくなるんじゃないかな？ と思ってたら、実際、そんな展開だったんだけどね。決定力の差、かな？ 開始早々のチャンスは、後から見ても、やっぱり『千載一遇』の決定機だった。それ以降は終了間際の泉澤のポスト直撃まで決定機は皆無。チャンスの芽は作れたが、相手の GK を脅かすまでには至ってなかった。あらゆる面で順位の差を見せつけられたような気がする試合。なので、結果は妥当。普通に受け入れられた。ただ、欲を言えば「勝ち点1が欲しかった。」そういう試合。でも、よくやった、頑張ってくれたとは思います。現時点で、やれるだけのことはやったよね、と。ココを底として這い上がっていくしかないよね。あ、パウロにやられなかったコトだけはヨシとしとこ。（ぐん、）

●試合開始時点の雨は強くなかったけど、それまでに降った雨が相当なもので、昔の長良川を知る身としては「おう、懐かしいな……」と感じてしまう（苦笑）かなりの水含みのピッチ。この環境が、岐阜には『吉』と出た……と書いてしまうと、怒り出す岐阜サポさんもうらっしゃるでしょうか。でも、実際にそうだったとしか思えない。

「岐阜がやろうとしているサッカー」と「栃木シティがやろうとしているサッカー」。両者の完成度には圧倒的な差がある（だからこそその勝ち点差、順位差なのだ）というのは受け入れるしかない事実で、その両者の「完成度」を文字通り『水に流して』しまうような重いピッチ。どちらも「やりたいサッカー」が出来ないのなら、先にチャンスをモノにした方が勝つ。

試合開始数十秒で訪れた大チャンスをドウドウが逃す。もちろん重度の水含みピッチだからボールを強く叩けなかった彼を責めることはない。でも、結果的にはこれを逃したことが大きかった。前半、岐阜の甲斐が栃木シティの鈴木隆に強く蹴られた場面で鈴木隆に退場が宣告されたら試合の流れを変えただろうけど警告で済み、後半開始時にその鈴木隆の代わりに投入されたのがご存じピーター・ウタカ。彼はドウドウと違って、大チャンスを逃したりはしない。両チームで合計9本のシュートしか出なかった消耗戦は、「決めるべき時に決めた、決められる選手がいた方が勝った」という、納得するしかない結果で終わった。

ぼくは旧知の栃木シティ・サポと観戦していたのだけど、「岐阜と栃木シティの差はサブメンバー（の厚さ）だ」というぼくの説明が残念ながら的中してしまった。現時点の岐阜はスタメンがベストメンバーで、試合の進行に合わせてスタメン勢のパフォーマンスが落ちてきたとしても、交代で入る選手は「出ていくスタメン勢の、出ていく時点のパフォーマンス」と同程度か、あるいは下か。つまり、選手交代は戦力弱体化にしかならない。次の試合は天皇杯、対戦相手のカテは2つ落ちる。だったら、この栃木シティ戦は選手交代なしで「ベストメンバーでフルに戦ってしまう」のもありかと思ったけど、いつものように「結果が出ない」メンバーが出て来て。件の栃木シティ・サポは「鑄造の言ってたことがわかる。（選手交代で）怖さがなくなった」。相手サポに「選手交代してくれて岐阜ありがとう！」と思われ、そういう意味のことを言われるのは結構削られるのだけど、事実だから仕方がない。

そんな感じで、ピッチ・コンディションという『アドバンテージ』があったものの、岐阜は0-1で敗れた。想像してみよう、もしピッチが標準状態だったら。どっちも「自分たちのやりたいサッカー」をやろうとして、おそらく点差はもっと広がっていたことだろう。観客動員的にはマイナスになるけど、長良川での試合も雨だといいな。両チームがこのままなら、の仮定だけどね。（吉田鑄造）

【天皇杯】岐阜 3-1 富山新庄ク

●第105回天皇杯。その1回戦の対戦相手は、富山県代表・富山新庄クラブ。カターレ富山がJ2に昇格したから、北信越1部のチームが出てきたんだけど……その監督が朝日大輔と知り、僕はトラウマを呼び起こされてしまいました（苦笑）。かつて岐阜サポから“天敵”と呼ばれた、富山の#7。何度辛酸を嘗めさせられたことが……。しかも、富山新庄クラブもそれを知っていて、試合前の煽りに使ってくる状況でして。既に僕の中では、『富山新庄クラブとの対戦』というよりは『朝日大輔との対戦』でした。そして、その嫌な気持ちは現実のものになってしまう。そーいやあ、岐阜の大島監督と朝日大輔（敢えて呼び捨てです）は、昨季の鹿兒島で監督・コーチの関係なんだった。大島監督のサッカーを知っていることもあるけれど、良いサッカーをしている。北信越1部で4戦4勝（なお、同じく全勝の福井とは未対戦）なのも納得のチーム。ただし、選手個人の力量の違いが、チーム戦力の決定的な差になってしまっていて。岐阜は個人スキルで相手の攻撃を防

いでいるように僕には見えた。逆に攻撃面では、岐阜は個人スキルで良いところまで責めるけれど、相手が組織的対応で防いでいて。だから、得点シーンが攻撃の流れを作って奪ったんじゃなくて、セットプレー3発だけってのも、残念ながら納得せざるを得ない。もちろん、セットプレーで点が獲れただけ、良かったと言うべきかもしれない。かくして、朝日大輔に一矢報いることができた（と僕は思っています）。そのうち、どっかJクラブから監督の声がかかりそうな気がする。その対戦の際には、僕は『また、朝日大輔か……』って言わせられるのかなあ（苦笑）。（ささたく）

●予報より早く雨が降り出し、これは開場前から並んでも屋根の下は座れんだろうとか、メドウの駐車場は満車だろう……などと考え、のんびり出かけて、車を西駐車場に停めたら、「さすがに空いてないだろ？」と思ったサンサンデッキ下に余裕があって、少し反省しながらメドウのスタンドに上がったら……「人、少なっ！」と声が出そうになった。結局、入場者数は835人。四桁には届いて欲しかったが、おかげで屋根下に座れて、ポンチョなしで観戦できたからヨシとしよう。試合は3-1。いや、素晴らしい出来だったね>富山新庄。しかし、何がビックリしたかって、先頭で入場してきた7番の選手。富山新庄の中でもひとときわ小柄で、長髪のポニーテールが男子のソレには見えなくて、思わず、隣りの知り合いに「7番のコ、もしかして女子？」と聞いちゃった。持ってたプログラムで調べてくれたんだけど名前が『青空』。どっちでもありそうなヤツで、もう、笑うしかなかった。知り合いがググってくれた顔写真を見て、ようやく安堵（苦笑）。

前半は拮抗してたんだけど、先制できたのがよかった。ただ、ロングボールの処理ミス？から、あわや、モギシューと一対一に・・となった場面。新庄の選手にシュート打たれてたら、と。だから、得点がセットプレー絡みばかり、流れの中で取れてない……とかいう考えはない。それよりも、無失点で抑えられなかった方が気になるね。誤解を恐れずに言えば、トーナメントなんで勝ち（上がり）方は気にしてられない。それと、やっぱり、特筆すべきは『前半AT』。四審が「AT2分」と出していたから、笛が鳴った時は「アレ？早くね？」と思っただけで、主審の裁量の内なんだな……と見てたら、まさかまさかのやり直し。コレがホントの『追加時間』か！と笑ってしまった。大変だったろうな、試合後は。ソッコーで顛末書と反省文の提出もさせられただろうね。大穂さんか。覚えておこう。

それから、心配してた「交替、オレ！」は出来ない規定だった模様。だから、メンバーに入ってなかったんだね（たぶん、違う）。とにかく、「また、朝日が……。」が、ちょいとトラウマな古参の端くれなんで、そんなふうに考えてしまうのはしょうがないよね。さて、次は平塚か。休めるかな？（ぐん、）

●富山新庄は過去には天皇杯富山県予選決勝でカターレに勝ったこともある強豪で、今季の北信越1部でも4戦4勝の得点15失点1。そしてなにより、監督は現役時代の「活躍」で『岐阜絶対倒すマン』の印象が強い朝日大輔氏。ぼくは天皇杯プログラムを入手すると、真っ先に富山新庄の項で朝日氏が選手登録もされていないか、試合の終盤に「交代、オレ」で出てきたりしないか探してしまった（あとで知ったけど、天皇杯はプレイング・マネージャは登録出来ない規定らしい）。試合は3-1。チームとしてのやりたいことをどれだけピッチの上に描けるか？については富山新庄の方が上に感じた。もちろん、選手のポテンシャルは岐阜の方が上なんで、危ないシーン自体はそんなに多くなかったけど。得点はセットプレー絡みが3発。でも、3点目の直後に中央をドリで抜かれて綺麗にミドルを叩き込まれてしまったのは大いに反省だ。こんなにちゃんとしたサッカーを組める朝日氏においては、早いところS級ライセンスを取得して岐阜の監督になってほしい、と思った。過去を水に流して歓迎しますよ（笑）。（吉田鑄造）